

平成29年度 千代田万世会館経営・財務モニタリング

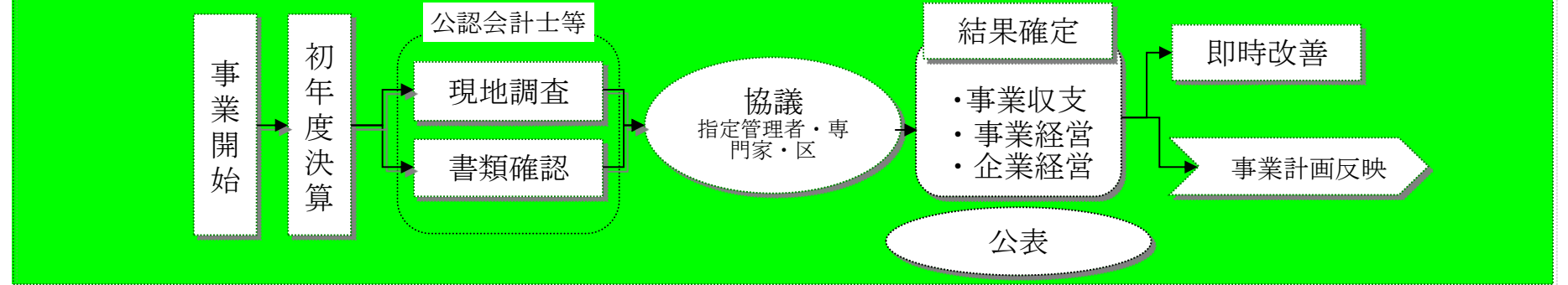
1 経営・財務モニタリングの概要

○対象：千代田万世会館

○方法：指定管理者制度の研究・モニタリングを行っている中小企業診断士等による経営・財務分析

○視点：財務状況、経営状況、課題及び改善点

2 モニタリングの流れ



3 経営・財務状況

(1) 施設利用状況(平成28年度)

① 目的別利用件数

葬儀利用	101 件
会議・法要利用	39 件
付帯設備(冷蔵庫)利用	61 件

② 区域別葬儀利用状況

麹町	10 件	神田公園	20 件
富士見	8 件	万世橋	25 件
神保町	14 件	和泉橋	24 件
合計		101 件	

(2) 施設の収支状況(平成28年度)

(単位:円)

項目	決算額	項目	決算額
葬儀利用	11,289,800	人件費	8,973,193
法要・会議室利用	366,500	光熱水費	2,320,265
付帯設備利用(冷蔵庫)	1,265,000	委託費	11,788,487
その他(自販機)	6,161	修繕費	1,499,893
小計	12,927,461	備品費	65,367
指定管理料	16,320,893	消耗品費	451,645
合計	29,248,354	役務費	1,718,318
		小計	26,817,168
		消費税	910,734
		合計	27,727,902
		収支	1,520,452

4 提言・アドバイス(事業の改善策)

(1) 運営状況分析及び提言

① 施設の利用状況の分析

前年を上回る利用実績を上げているが、目標が高く、葬儀利用と会議・法要利用では目標に到達できていない。普段使わない施設なので、認知度向上が課題となっているが、「自主事業を積極的に行う」、「葬祭業者に積極的に営業活動を行う」など、地域への浸透に努めており、今後さらなる利用者増が期待できる。

② 建物・設備のハード面での特徴

都心の狭小地に立地する施設で、立地面からも構造面からも制約の多い施設である。施設の特性に合ったサービスが提供できるよう、施設独自のマニュアルを整備するとともに、施設特性に合わせた研修を行っている。また施設の特性を十分に理解し適切な方法で利用してもらえよう、利用者(葬祭業者)向けの充実した利用案内を用意している。

(2) 財務分析及び提言

① 千代田万世会館の収支状況については、収入を増加する取組に注力する一方、経費削減に努め初年度の平成28年度から黒字を確保し、平成29年度も黒字の見通しであることは評価できる。

② 指定管理者の財務状況については収益性、長期安全性がやや見劣りする。売上の拡大・原価低減等の施策展開による収益性の改善に加えて、資産圧縮、資本増強等による長期安全性の改善が望まれる。

(3) サービス分析及び提言

サービス向上について評価できる点

- ① 日常業務からクレーム対応まで、様々なケースに対応した当施設独自のマニュアルを整備しているほか、接遇研修も当施設のサービスに沿った内容で実施している。また1月からは常勤職員のミーティングを実施し、サービスの向上について話し合っている。サービス向上に熱心に取り組んでいるため、安定した品質のサービスを提供することが出来る。
- ② 東葬協千代田支部支部会への参加や葬祭業者への営業訪問、利用者アンケート等により施設へのニーズの把握に努めるとともに、積極的に業務やサービスの改善に活かしている。
- ③ 指定管理者の業務の特性を生かしたフラワーアレンジメントの自主事業を実施し、施設の認知度向上と地域住民との関係構築に努めている。

改善の必要な点

- ① 日報で情報共有しているが、実際に読まれたかどうか確認できない。情報共有を徹底するため、日報を読んだら押印するなど、既読を点検できるようにする仕組みが必要である。